

## 編集後記

2003年4月に開学した本学の研究紀要も、昨年度の第5号に引き続き第6号を刊行する運びとなった。日常の学生指導や教育、さらには学内業務や課外活動の指導など非常に多忙な条件の中で、研究活動の成果を紀要にまとめることができたことは大きな喜びである。ご理解とご協力頂いた方々に対し厚く御礼申し上げたい。

研究紀要第6号は、課題研究論文、自由研究論文及び研究報告から成っている。競技スポーツ学科からはオリンピック開催年というスポーツ界の節目の年にあたり①「オリンピック・パラリンピック」と題する特集を、生涯スポーツ学科からは本学での生涯スポーツ振興の取り組みを中心に②「生涯スポーツ振興の現状と課題」と題する特集テーマを設定し、両学科合計9名の教員に執筆いただいた。合わせて8編の論文には、本学教員の国際的な活躍と研究の成果があらわれていると考えられる。

自由研究論文については、編集規定に基づく慎重な査読・審査の結果3篇の論文が採択された。また研究報告として5編の論文、報告を掲載することができた。なお、各投稿論文、報告については、下記の方々に査読をお願いした。忙しいところ査読をお引き受け頂いた方々に厚く御礼を申し上げる次第である。

体育学やスポーツ科学から「スポーツ学」への展開を研究・教育の中心にと提唱して早や6年、果たしてその道のりを正しく歩んできたのだろうか、内心忸怩たる思いは否定できない。今後の発展のためにも、研究紀要はその中心的役割を果たさねばならない。今後のさらなる充実と研究の発展を図るために、すべての教員の方々の忌憚のないご意見をいただければ幸いである。

### 査読者氏名

新井博，江刺幸政，大久保衛，小笠原悦子，金森雅夫，小松崎敏，柴田俊和，渋谷俊浩，白木孝尚，高橋佳三，高橋正行，佃文子，長瀬整司，的地修，山口満，若吉浩二

学術委員会委員長 金森 雅夫  
紀要小委員会委員長 大久保 衛  
研究紀要編集委員会 若吉 浩二